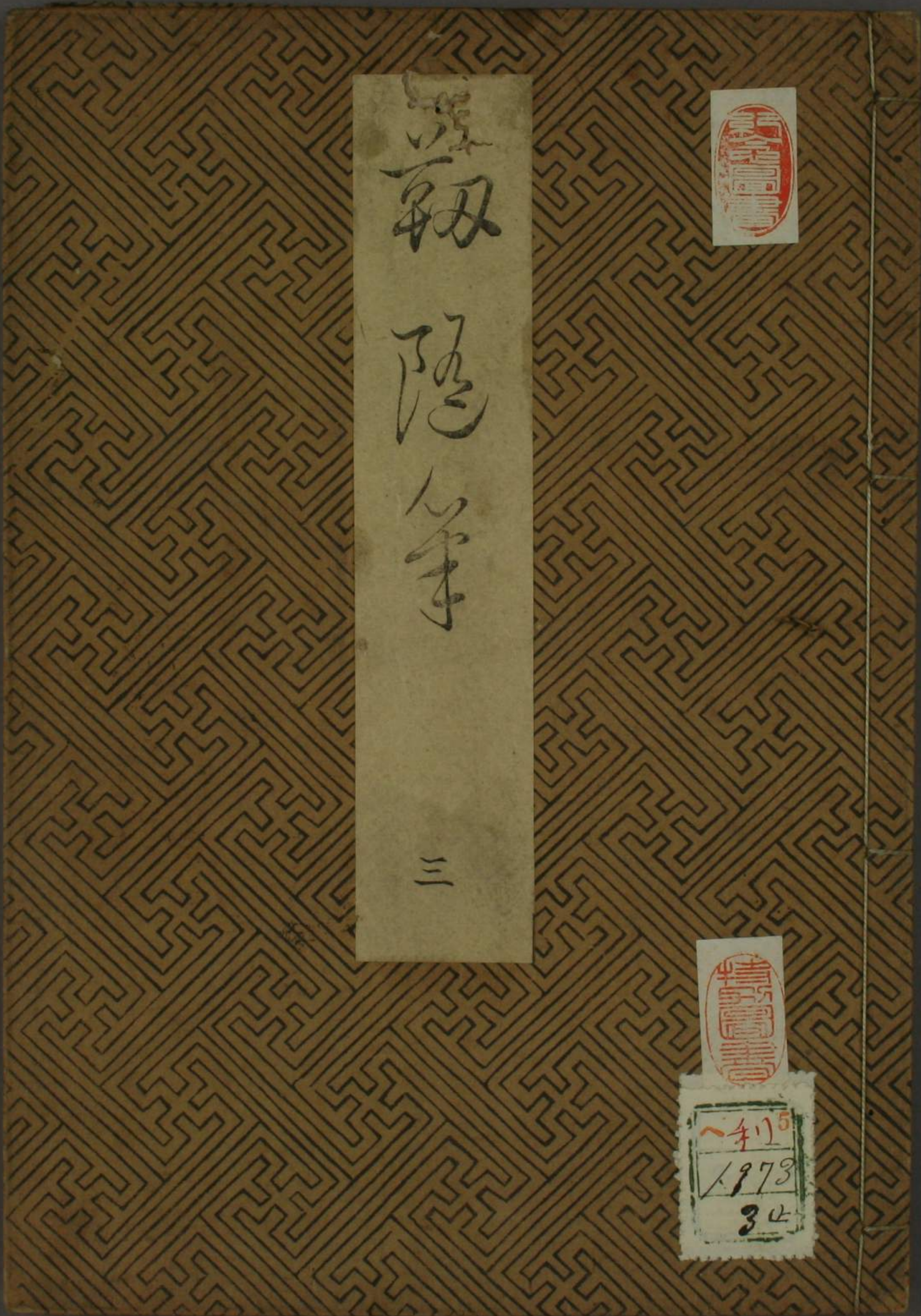
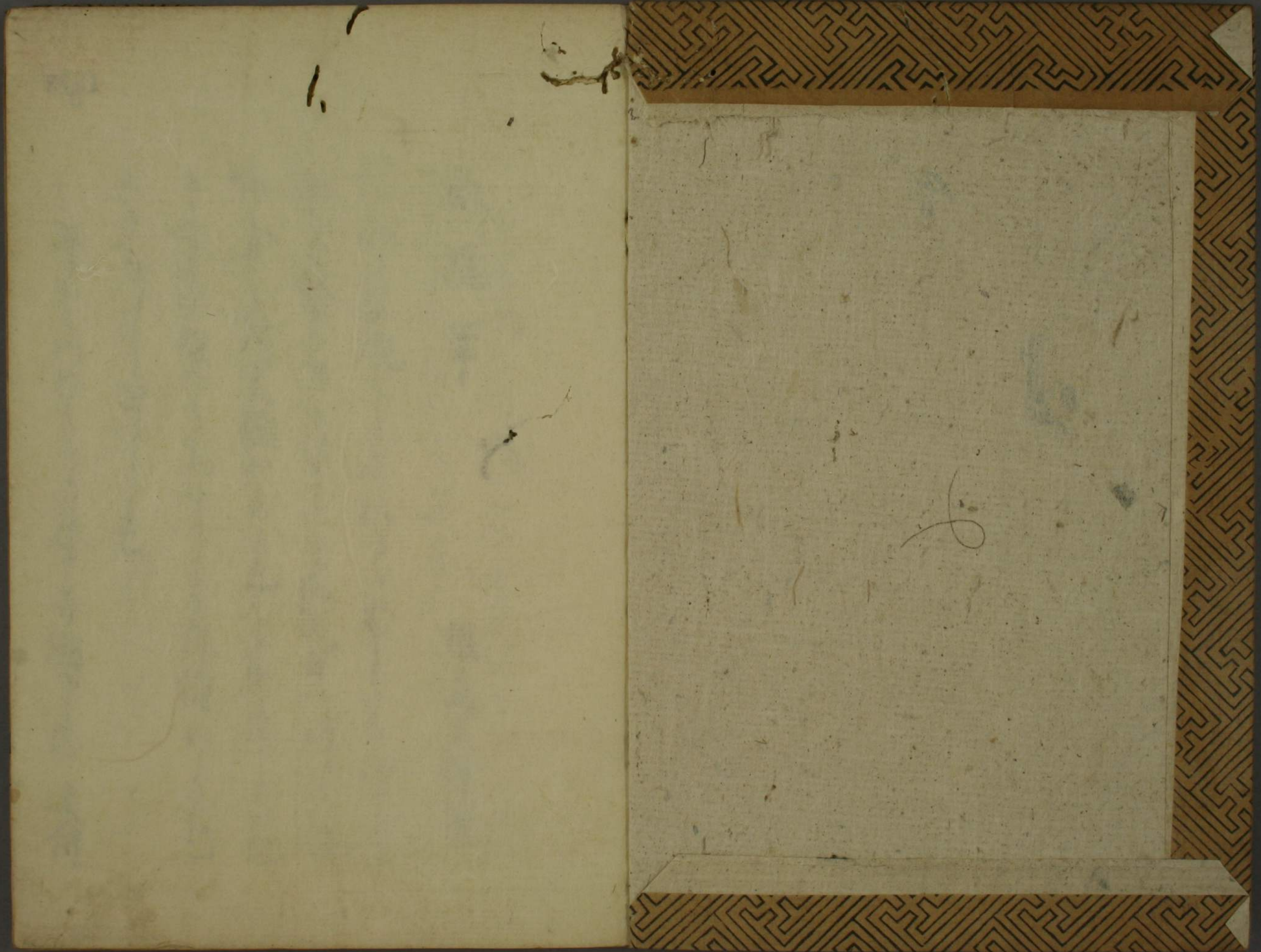


KODAK Color Control Patches
© The Tiffen Company, 2000
LICENSED PRODUCT



利 5
1873
34





1973
3



靱隨筆

権道米仲著



江都の四流一巻わく老まゝる海
地を改め寸とて元日ハ川さ
ゆあし新大橋のみ色と見ゆる
りわく風情り
年とらわく潮ら米仲

雛まきく親ハ娘と泳ぐらんり 梁直

くまきく見る様の中貝やも風糸 李道女

くまきくの口と守りや雛の中 羊伴

も溜く内衣と居る雛も 呼臺

酒濁山川白 牛吞

白酒や目く花く桃のりる 春里古賀女

むか奈衣の巾着のあうり 竹史

雛糸氣のきく 小盛 采青

雛の幕さふふ奈花物語 慶子

葉目や鐘埴とくふ草のしら 羊伴

くまきく葉落る日のも食氏 羊徳

切れりやく似るあやうあや太刀 祇丞

葉まよや是ぬ大内と叫ぶ娘 赤子

羅の風やや白うきまき 鍋盛鳴海

さきりといか乳や教へ 柏餅 潭鳥

くま風のうり 始や軒あやめ 東鳥

兵と餅くめしむらんかき 歲月

いし子ぶさしれあるい餅 楚纓

まふ人の先くわすお懺 古来

燕の宿さういさうおあめ 万輪

さしあふふも清くすう迄 米帆

金太郎見よもゆけぬ懺 米布カチ川

竹の葉のいとくさ星びく 汝章

百姓もふらぬ一えの月 うま

天冠のりり星あり 銀河 青徳

星合とあふ見んゆの舟のな根 来青

旅流とゆあふ島にゆきり 米菰

せいののあまのり川あれすいすい 米枝

せいののあまのり川あれすいすい 米枝

今しつらあふのりいしひ 臺簫

ふとのいし流けしきりあふの葉 鍋盛鳴海

馬の背山路の葉ふ残れり 米伴

解つるる人受くしそ所志氏 紀逸

後解りる銅の板見じし一の暮 鶏口

燭あつしつゝのり

書前ふ入る

曾智の杖のちるる氏古き 兼徳

年くれぬ定よみ家隆もぬい又 百菴

帳はひはるし所まの所のみ 采伴

親の甲おきつる子奇人達の暮 太^京祇

世中の所志といふふ十寸鏡 李^女道

轍屋も青いしし所 年のくれ 再機

行しを括きくは蒼心層り耶 万輅

まらうし人し物しを梅のくれ

がるわねおやれくは夕鳥の白く

れりひししししりけ度の花は

い笑の色ししよ

御用とい何の花はも大毎日 兼伴

とし白の松のししし所走舟 岷山

煤くまぢぢけぬ人お花はし 普子

獨吟百韻

障目しるるこふ金のうひの雪とれ
おもわらぬ車傍にきこ押さるる
しるもよむれぬ

米伴

元藏のゆらぬ車たつま雨

不増不減の糖の一しら

梳の酒吐々欲う一隣すらん

猿の杖もまの足曳のこ

さや野守れ櫻新見とく

月常住小森わらぬくひと

まもくも且那巨續と去り

言 茶漬さらつてらゆりあま

腹合いののけのくら力る

六条うらひも徳ゆり

わらわらさむいとうあさ路の原

盗とたぬよとくも食也

氏ハ釋ノ名ハ西入ル西念ル

あつたれ等ハまきのしり

月ヶハ躍ハなると觸とされ

久雄と焼とく答ふ店屋もの

詩ハいしく持織の子ハ娘に回

色ハ思葉のほうしてたけろ

養の目ハか茂る川波がらんて

丁ハいりりりりりりりりりり

佐ハい物たの下技まらりりり

拾ハ積ハいりりりりりりり

子ハい寺ハいりりりりりりり

しりりりりりりりりりりり

教訓の口ハ下りりりりりり

今川仲秋ゆあけけの事

軟舞妓ハいりりりりりりり

鯨と屠ら浦ハいりりりりり

アテツキツ子

天狗 太平記めもさあ〜ぬ

咄こ〜や〜 霞の礫

〜 桑の金〜り〜板庇

地〜ら〜い〜し〜花紅葉

〜 定家流め〜いろはにほへど

紙屑も 嵯峨の川 散さ〜り〜

〜 法体と〜り〜 笹土

〜 法体と〜り〜 笹土

救済者のか減られも飲んたれ

鍋ノ大陽〜 白煮の骨

降る雪とが犬〜り〜 妹〜

〜 の 鷹野の心 妹〜

公羽〜い人ぬ〜り〜 子フト

〜 の 所乃 瘡〜

何〜し 厨の隅〜り〜

主の 鱒〜り〜

目前ふもこのま枝折る捨

十津坂ぞまほしく一面の月

冷しやぢふく寝人あつた

懸るこゝろのま秋のこゝろ風

水腫るの障子あけしこのまひく

ふたあはたりひお千壽をたむに

ふ衣あつてくたぐのまゆり

逢ふこゝろの六法こゝろみ

花の酔り眼ハ三角酒旗風

糸の胡蝶やめぐる禪林

ゆる描はらんそまろがくみある

糊すり染いのつりあはら

腰のまほしめあまの産れるよ

うのこゝろ持し伊勢の雛歌

あつたらしらんとかはたの回者流

こゝろあまの廊下をのつれ

善清のしら雲の向きの月清

こい槌わぬ松住僧

さき生いり甘朝くさつるお

津奈川舟の賞ふ三世相

長持の布く便きつる年月

奥てころろく所前わたり

むも貴賤上下きんき風を

道中自かくはくる志のそん

灰なる煙もわらわらしめぬ

稲荷の心の社頭

小鋸活めし者しと奈良刀

身狭りわけ扱うらん

生く薬仙術既ふ志をこし

馬麻の文字は是わらう宮

虹をくぐる鶴の橋より月

白くふとくはくは風

薄の陰女わ〜られ出けるも

伊勢物語の繪のよみとくひ

い〜〜〜捨〜吉原風

う〜〜〜船場ら宿

東海りるら波や朝ゆめよ

汐がれ貝と〜〜〜

雅伎の横〜置か花の枝

其天教日〜〜〜春

ニ条大ま〜南〜らわわ

春あや馬〜〜釣あ保り〜米平

ぬ音の〜〜〜狩 米京

しらまけ〜〜とぬらぬ鼻雨 龍眼

わ月るわ田舟の中ふ鳴く蛙 存義

わ〜〜〜井戸のま〜〜 京 太祇

〜〜〜小眠〜〜〜の目切り 鳥皮

〜〜〜角衣ゆ〜〜馬の上 青壘

夕らら風の懐かしくま
山
ゆるり橋のすまらうり
幾月
るらわ海棠の葉のさうり
左使
秋のぬ宿を寝る宿をわく
岷山

草菴中

鉢盂一斗の漏りぬ秋を雨
由林
とらら人の夜をわくぬ
鳴海
和菊
あし麻一匹五尺のほろ夕時ぬ
素勇

音のりや駕おきけの村時ぬ
歩跡
平依門回このんれまら
銭下
一列子夢を解く
フケキ
巫現の占夢も論説
後
袋草子あはる人の夢お野途お月さう
薄
むらむら人あはる小町と祈り
秋をせら
らららふあぬめ
わのふさの
い
但狹日
根廢
か
三

聖日師の~~~~~俳話春所い~~~~
 芭蕉の~~~~~土臺~~~~
 合~~~~~中~~~~~わ~~~~
 詩歌の意~~~~~と~~~~~と~~~~~
 芭蕉の~~~~~と~~~~~と~~~~~
 芭蕉の~~~~~と~~~~~と~~~~~
 芭蕉の~~~~~と~~~~~と~~~~~

聖日師の~~~~~一周を~~~~~

~~~~~東鳥の~~~~~ 春来

~~~~~東鳥~~~~~

東鳥娘の~~~~~
 ~~~~病~~~~~惜~~~~~  
 の~~~~~  
 け~~~~~  
 だ~~~~~

實徳の~~~~~ 十九年

~~~~~  
 ~~~~~  
 ~~~~~

長の庵も子おまきよまゐらむる所よ 東鳥

子とく

埋ちやほむごめもくぬりら 再賀

岐嶽川を驛山の林よか富く大野を
各助も榮枯地と易かくのほ十徳安
の曙所と化しつふあはし
けとちもくくまのまきさるらり
すまはらつらつあふらぬ豊くぬる

とくさくたにさくつらあつら雪佛 本件

一相因清盛入道殿の心のくく八條二位殿のまき

きくく猛火の影しりりんら車お鉄

札とせく鬼形の軍門西へ遣入らる見

はらひて 一書よ二位のくまハ赤ハなほくくくく

是ことくく 因もあつたれゆらめら漂りくく 入道殿やぬく逝去

のくく平もあゆみわたしれく

くくく故吏談お義家朝臣

くくあかりるくくく

夏葉や狐と交せしく鹿り馬 米伴
 ゆふ白やけ一村はくく取 我梁
 夕鳥やあもほの暮る札の辻 寛里
 へくく伏猪さうひよ小菘原 湖海
 ひく鳥やをぐく一俵一里塚 浙江
 朝や植まらう心のあはぬ 采璘
 温泉の地獄お世一麻のみ多 田社
 鷹もりけみ人の福のたの時 葵豆

初丁や千住のりまは行便 甘棠

今泉の建長寺く下りるくす所
 ころころのころころ草あまみ
 わるひころ岩おのころけり
 ころころのころころあまみりり
 ころころの腰うけねころふい
 わんざれ

我は体じこのめくく天狗松 采舟
 鐘小又覆輪がくく麻の屋 采山
 麻の青やけりく腹の内り秋 其道

ザ〜る證と第時過の証訓とあれは全く

ホトトキスク

別鳥〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

和名鈔ふ

と鷗纏と保度、本須〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

過〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

年と秋と雨の足と掃のつま、米岑

寔の〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

掃の〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

姑と鳥部〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜 橘の毒 子夷

〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜 蛙の卵 普子

我舟と早下する 肺の蛙可南 萍社

田程金等の毒 蛙の卵 五雲

夜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜 溪梁

鳥部〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜 信鳥

〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜 姑廷

〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜 氏

月の見くわきよる春中帯の下 龍眠

銅中をきくし中一 泳き利し 旨原

蚊子の後半しうしむはらうし
中くはらうしむはらうし

更くても雅くやしむ扉式 庭臺

肥しも軽ししよ姿の卯 曲哉

淋しきよ徐くも書ぬの困子鳥 五雲

造管の飯時りしし困子鳥 龍眠

夕まのりしし中見よるがらん 采儀

草のあやみくしぬる臺り菊 巨龍

まじくしきとみくしぬる臺り 采儀

あしあらのし中見よるがらん 理帆

葉宿しし夜の蒼のほたる哉 清泉

さらあつ水とわゆるる臺り卯 李道

青貝の響ししりしぬる臺り 花礫

日暮くしし湯ししきまぬ臺り 超雪

蚊の居るはらうしとわゆるる 正川

声わ〜〜蚊の飛行〜〜きくれ 露牙
 地性もとれ〜〜焚ゆる蚊遣ぶ 起来
 う〜〜寐お鳴響り〜〜の蚊 西月
 嶠の板ハ紙燭お見ゆる今ハハ 采黛
 ほ〜〜う〜〜のう〜〜カ金魚の鼻の先 湖十
 枝〜〜の〜〜と使〜〜ハ蟬のふ々 采岑
 日感と者〜〜ハ蟬の林可南 小鳴句 露英
 じ〜〜ん〜〜鳥の〜〜ハ蟬の〜〜名 由雅

羊舌ハ蟬の時ぬ〜〜日傘 一瓢
 う〜〜も〜〜ふ〜〜醫者有利と〜〜鳴り 采泉
 辰産の〜〜ハ〜〜と〜〜鳴り 水路
 汗も日も入〜〜ハ小蘇の盛〜〜柳 采蓮
 醜と豊〜〜弱〜〜沖〜〜の〜〜の〜〜 子周
 牛の膈〜〜ハ〜〜枕ハト〜〜〜〜 溪梁
 夕雲の虫〜〜ハ〜〜〜〜ハ〜〜寺 竹史
 しく〜〜鴉の〜〜ハ〜〜ハ〜〜根〜〜子 雙鯉

酒のついでにさくらや今鷹額巾 糸平
 鷹狩や兵衛もつ本綿もの 理帆
 め鳥の何と求むる尻もつり 曲峯
 め世とのつれも藤や蛸小舟 菜陽
 鶉の着真にねる人寒もつ川島式 五雲
 一人参と順和名かつ海のもの又りのあげくさ
 一めり古史記仲哀天皇の條下新羅 シラキ
 人參渡来といはれしれども割れを ヨ

一文徳實録云百濟朝臣河成在宮中 カハサリ 今 ニ 或人 ツ
 喚 ヨハ 從者 ツ 或人 ツ 辞 ス 以 ニ 未見 ニ 容顔 ツ 河成取 テ 一紙 ツ 圖 ツ 其 ス
 形體 ツ 或人 ツ 遂驗得 ル といはれり人の面と繪
 かはれしももつり今
 一海棠 ツ 似 ル 其 ツ の ツ 躑 ツ 躑 ツ 也 ツ
 日本 ツ の ツ 櫻 ツ の ツ 各 ツ 別 ツ り ツ る ツ も ツ 也 ツ 履 ツ 中 ツ 天 ツ 皇 ツ 紀 ツ

オホミキタテニ

酒献時さうに御盃おちらるる冬
十百のころもわかれ八時あつたころと
わしのみ又仁明天皇右大臣藤原良房の
の園の福さうさうさうさうさうさうさうの風
流既さうさう

日くりの運め

大なるあつたころのころさう
八重の散るわさうさうさうさうさう
甲州 周如

花の鞭柳も駒さうさうさうさう 錢中
あつたころ他はさうさうさうさう 理帆
花の鞍さうさうさうさう 正川
さうさうさうさうさうさうさう 花磔
さうさうさうさうさうさうさう 遠糸
さうさうさうさうさうさうさう 青壚
さうさうさうさうさうさうさう 森羅
夕暮のつらさうさうさうさう

心もろく

君命の石碑ふゆに 櫻狩 青徳

舟長とちわいふ舟房の月見歌 朱徳

と月やわきく浪らの瀬浪山 水路

徳も浪も満の月見とらふ月 府月

杜人ら信ふおかしき松と月 朱謡

と月や津とささの柳の葉 五雲

ふ囀くは流とく 月見歌 朱伴

豆見月栗喰娘芋僧都 女

とものこり跡のちるはの月 嘉延

とら花の本ら同とら何也後れら 朱宇

柿くらのの葉の

字下あやうのむ

鱧

うら焼の喜多屋あや 十之辰 朱伴

初雪ふ軒ふや 今下那 甘棠

らうとせの秋とさし 雪の音 青藍 佐原

あふよをえわ〜 雙鯉

雪輕〜 萬立

花柳前下〜 雪見氏

わら〜 再領

〜 珉呂

を根舟よ〜 平

雪中下 塩漬の流る〜 采山

初雪の朝〜 采仲

乾提〜 丹鳳

ゆた〜 吉門

〜 山子

〜 凡鳥

古郷〜 亀成

八王子雪〜 再領

柔〜 珉呂

初雪〜 平

あ〜 府月

冷毫と栴くひの雪うとまらぬ
采菽

雪の飛天り下る風佐野を暮
信鳥

陣しきる雪ふくはし
由雅

下まの口春けし
吟糸

小丸の雪まじり
采仲

くらぬらぬ雪の
采純

鎮る雪の上か
采旭

竹の冬小積り
采謡

山賊の
律砂

藁火焚く
采齋

白く雪の中
許道

菴中記

爰中ふり
采

つら
采

菴の
采

ひら
采

厨中をくぐりては旦暮の煙を思ひこり
ととくしり竹の籬よ松の門をこり
こみくもくわう佛ふはうふまうらう
ほの他わ

葛飾の枝よりとこりけ身は 春來

郊外

梅の香は足駄草履ふはらひの 衆賀
小所なりと老くも梅の色香は 西月

古鏡の鏡よりけり柳の柳 曲峯
しとくして柳も道と教まり 鳥皮

左馬おの舟待きまき若菜は 菜陽
若草のよし野入り馬も馬の糞 塵連

菜のよし響車の蹄音は 再馬
まの舟と衣の袖をこ蒲云哉 吟糸

とくや今朝の葉よかたの枝 桃李
酒のめけは梨花の露よみ排の袴 丹鳳

よしの中相傳九郎と繪

心あがり馬お多葉粉と食ハきじ 采仲

牡丹見の又鶴くや豊ととら 紀逸

ととらおゆかー余たや葉の残 菜陽

世中ととら若子人の中 再機

後成の門ととらや初若子 丹鳳

紫陽花や夕アの雨ふる月がと 桃里

百合笑くや願くのととら一粟 栖霞

む

た

しつらぬお杖ととらあしと長かり 鳴海 鉄支

ととらいを流ゆととら若く和 銭中

朝魚の捨りくくわぬ成 飛鯨

あさつらぬの一輪くくや利休垣 呼童

思灯や蚊かられと売衣 普子

ととらととら葉のちぬいわたあて 李道女

菊の香の小袖ととら初織氏 再馬

月守の回ととらあしととらの花 花磔

三三

落葉や庭に散るる谷のみ
理帆
點炭おとるり鳥皮夕のしら
溪梁
丁こし袖うすのりく谷紅葉
青璣
通天のうしく繪具の紅葉
森羅
さつての火ふ又一葉見ると落葉哉
鳥皮
糸ぬく大根むくむる女女柳
さつこ
園子食ふ馬と枯竹く笑の南
再馬
鑿口の刺しつゝ酒を小枯野氏
四友

ひの

又色さく果ふりし枯野氏 裡
すけのまもばのお枝るみ舟哉 汶長
一堀河夜討りつゝ法書おわりのし知れ
し書よ土佐坊昌俊兵ツハムネと率し文
治元年九月十七日申ハ六条室所の真つと
とくくしと見くらり東鑑お立夜のゆ休
がしつゝも豫州ヨシウ壯士西河邊道遠シニミカハヘン道遠ロウヨウ
て強しと見くらりくくしつゝと

りよは夜に舟に乗りて等首道に上りて
日中しとるしとるも故あるぞ

一著聞集のいづく匡房中納と太宰の權
帥ふりしと任ふ赴きしとるよ道理ふ
しとるしとる舟一艘ふつと非道ゆ
取ら物とる又一艘ふはしとるはとるふ
る舟の舟は海しと非道ゆとるふとる
しとるしとる江帥ゆとる人非道よ

しとるの舟はしとる意ふ事し故あるしとる
一角仙人のさしとる靈堅の通力とるしとる
とる扇陀羅女一人のさしとるしとるしとる
とるいぬしとるしとる頭國頭城がしとる類しとる
しとるしとる女は遊女の熱名とるしとるしとる
翠眉雪肌情慾人のしとるしとるを奪ふ何
とる角仙の鉄所溶けしとるしとるしとるしとる
宮女の魁とるしとるしとるしとるしとる人

あつたてのついでに

一舟のりしり魚のついでにロカイ船櫂ツヒシの尾

あつたてのついでに

くる物ツモのついでにひけかきとけりしり

しりしりしりしりしりしりしり

石何とてしりしりしりしりしりしりしり如鷹鳥

はしりしりのついでにしりしりしりしりしり珉呂

しりしりしりしりしりしりしりしりしり米轍

詠のすくわさしりしりしりしりしり起来

鳥のついでにしりしりしりしりしり義延

夏月小凡のついでにしりしりしりしり府月

ついでにしりしりしりしりしりしり米宇

山をたふすと舟しりしりしりしり米運

秋風辞

わさしりしりしりしりしりしりしり香原

降る雪のついでにしりしりしりしり米舟

十露盤小の是 春來

流りまゝく生海花の空お及まらう 義延

橋尻とめくくし鴨う夜ぬゆ 祖平

山も枯くらの木や 新舟 青壘

一名のくわくく巻かな くるまのくく

スモリ 巢守さくく人法の師 八橋のまき

見ゆるくくくくくくくくくくく

源氏の君松くく風のくくくくく

解くくのみくくくくくくくくく

博覧の君子おくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくく

千歳後進のくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくく

伊勢ゆくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくく

り〜あもかき〜
次鴨所の襖ハラハハツ

めくもや登西のハシハシ月麻ハシカ疹カ〜

きれいカ襦カ〜
カカシロ

てね〜の形代カタシロをば〜舟フネ〜

美人糸竹メウジン〜
川カハ〜

あま長橋ナガハシの風流フウリウ夜光ヤカウ〜
米メ俵ヒラ

屋根舟ヤネネフネ〜
米メ菰モ

裸ヌ〜
米メ菴ソウ

索ソク勢セイや鼻ハナのトト〜
米メ璣レイ

まゝ人の大晦日オオソイ〜
常樹ジョウジュ

真マコト身ミも山ヤマ〜
米メ二ニ

地チ花ハナ〜
米メ二ニ

帷子帷子〜
秀億ヒデヨシ

稻イネ〜
秀億ヒデヨシ

真マコト先サキ〜
秀億ヒデヨシ

真マコト先サキ〜
秀億ヒデヨシ

真マコト先サキ〜
秀億ヒデヨシ

真マコト先サキ〜
秀億ヒデヨシ

真マコト先サキ〜
秀億ヒデヨシ

真マコト先サキ〜
秀億ヒデヨシ

葛ふらふと銘 續々盛る卯 汶長

すくぬやと鬼と眠る法師武者 子英

卯あふのゆめつゆりや舟の幕 規外

祇園會や古さと葉の分明ワイワイ 禾審

祇園今やわたのゆめつゆり 慶子

おしわらけ日初と人の放生會 永芳

きくふゆ田の臺ろも唐人 米園

飾る也神田みゆと衣仗板 友以

宮司の一日がら火鈴り卯 青洲

三石ハウ茶領や里神樂 米仲

烏帽よの昔やうらり里ゆ糸 枝夕

初午ふわとうり地露のさ 米幸

くら午やうらめまふ山 万輅

初午や雷いまさけ響 米仲

驟り子のほくはる日や初福荷 雙鯉

初午や母の陽と柔の早合点 秀億

おしよるは連枝よ小田の松 亀成

ふれこゝ初年かたのしや紙 蘭風

暮まのころきつふさ佐原の里

まき監りのしや建のしや

のありしや

謝りふら葉なまは

岩躰巧のしやけさの麻鴉 春来

宮守の序下しとんこゆせし

那とらふしや

卯利生や霞とがもらわさ山 許道

牛頭天王奉納

よら野ゆくすしや川上の酒屋に 兼伴

一作諸小秘を傳説とるくしや

うきしれぬむ貞徳門の立圃重頼西武貞室

等小條の覺とまのしや謾お初んハゆ

採もるまのしやしやゆて大既趣と

たれしやたれしや連枝のしや

此ハ傳説ハ連方の之達おゆの〜事人〜ハ
志ノド 俳諧^{ハニ}並^ニお^ハ壺^ニ觸^ルとわ〜も時ノ
字^{アサ}あつてハ杜撰^{スサ}とありて人と欺^{アサ}くもまゐる
〜 印^{ワケ}あはれ心^{コト}〜 宗因^{ハニ}區^ニ蕉^ニ嵐^ニ雪^ニ具^ニ角^ニ
〜 かしふいけし〜 遺書^{ハニ}おわ〜
〜 後のほ〜 用^{ハニ}おま
今〜 わらお傳授^{ハニ}の句^{ハニ}伝^{ハニ}〜
面^{ハニ}白^{ハニ}〜

するお志^{ハニ}く〜 あ〜 人^{ハニ}知^{ハニ}ぬ^{ハニ}ま^{ハニ}と^{ハニ}我^{ハニ}の^{ハニ}
覺^{ハニ}〜 身^{ハニ}目^{ハニ}と^{ハニ}驚^{ハニ}〜 心^{ハニ}と^{ハニ}ほ^{ハニ}〜 心^{ハニ}と^{ハニ}迷^{ハニ}〜 心^{ハニ}と^{ハニ}始^{ハニ}め
〜 穿^{ハニ}鑿^{ハニ}お^{ハニ}落^{ハニ}〜 心^{ハニ}と^{ハニ}又^{ハニ}〜 心^{ハニ}と^{ハニ}道^{ハニ}〜
た^{ハニ}ぬ^{ハニ}〜 ハ 教訓^{ハニ}口^{ハニ}授^{ハニ}と^{ハニ}得^{ハニ}〜 心^{ハニ}と^{ハニ}秘^{ハニ}傳^{ハニ}終^{ハニ}行^{ハニ}
〜 心^{ハニ}と^{ハニ}成^{ハニ}就^{ハニ}〜 心^{ハニ}と^{ハニ}秘^{ハニ}傳^{ハニ}の^{ハニ}
切^{ハニ}紙^{ハニ}が^{ハニ}〜 心^{ハニ}と^{ハニ}若^{ハニ}餅^{ハニ}と^{ハニ}ね^{ハニ}び^{ハニ}や^{ハニ}〜
市^{ハニ}お^{ハニ}售^{ハニ}頭^{ハニ}め^{ハニ}〜 荷^{ハニ}擔^{ハニ}〜 心^{ハニ}と^{ハニ}俳^{ハニ}諧^{ハニ}
お^{ハニ}店^{ハニ}〜 心^{ハニ}と^{ハニ}〜 心^{ハニ}と^{ハニ}〜

一千載集の壽永三年の始りて久遠の事も巻の先
 わりし其間二十四箇月とある古人云校合如風
 葉塵埃隨掃隨有とわ向してほらるる筆
 小まらるるまらるる魚魚刀力の誤なり
 かりとるるまらるる魚魚刀力の誤なり
 かりとるるまらるる魚魚刀力の誤なり

寶曆己卯年

彫工 吉田魚川
同 木童

遺編

俳纂語 近刻

江都書肆

京都書坊

本町三町目

西村源六

堀河錦上町

西村市良右衛門



Faint, illegible text is visible on the right page, appearing as ghostly impressions of characters. The text is arranged in vertical columns, typical of traditional Chinese writing. In the bottom right corner, there is a small, dark ink stamp or signature, which is partially obscured by a tear in the paper. The overall appearance is that of an old, possibly blank or nearly blank page with some bleed-through from the reverse side.

